

平成29年度  
テクノエイドワーキンググループ  
活動報告書

平成30年3月

テクノエイドワーキンググループ

## 1. はじめに

テクノエイドワーキンググループ（以下、テクノWG）は、千葉県千葉リハビリテーションセンター（以下、当センター）におけるテクノエイドセンター構想の具体化のために、平成21年12月より活動を開始した。

平成29年度は、企業との共同研究、福祉用具研修会の開催、センター内各部署への福祉用具相談支援、及び各作業班の活動を行った。本報告書では、平成29年度のテクノエイドWGの活動の詳細を報告する。

## 2. 平成29年度福祉機器展示室の利用状況について

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの利用状況を報告する。なお「福祉機器展示室鍵貸出簿」の記入に基づき集計したため、鍵貸出簿への記載が無い利用は含まれていない。

展示室の利用回数は合計247回であった(図1-1)。3月の利用回数が最も多く29回であった。一方、7月は利用が少なく10回であった。1カ月の平均利用回数は20回であった。延べ利用者数は773名であった(図1-2)。10月の利用者が最も多く113名であった。10月は福祉機器展示室を利用した外部向けの研修会、見学対応が多く実施されたため、他の月よりも利用者が多かった。1カ月の平均利用者は64名であった。(10月を除くと60名)。利用者の内訳は、理学療法士が174回(70.4%)と最も多く、次いで作業療法士53回(21.4%)、MSW5回(2%)であった(図1-3)。

利用目的は、患者への試用135件(54.6%)、用具返却31件(12.5%)、見学(外部)18件(7.2%)であった。(図1-4) 試用した用具は、移乗用リフト49件(19.8%)が最も多く、次いで車いす40件(16.1%)、移乗用具21件(8.5%)であった。(図1-5)

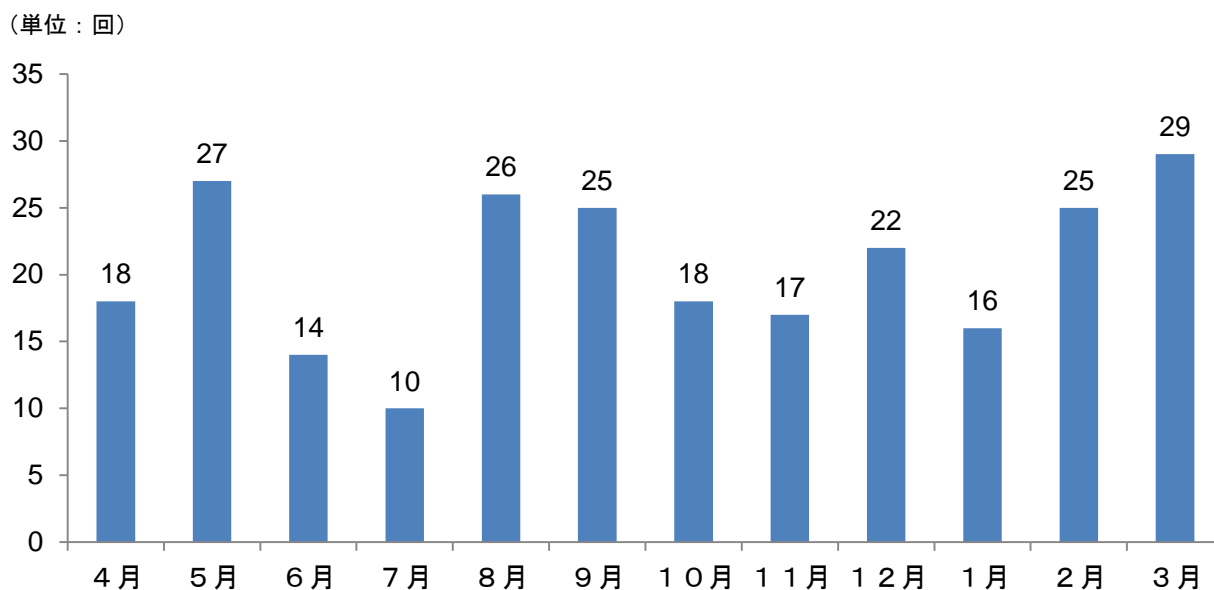


図1-1 利用回数 合計247回

(単位：人)

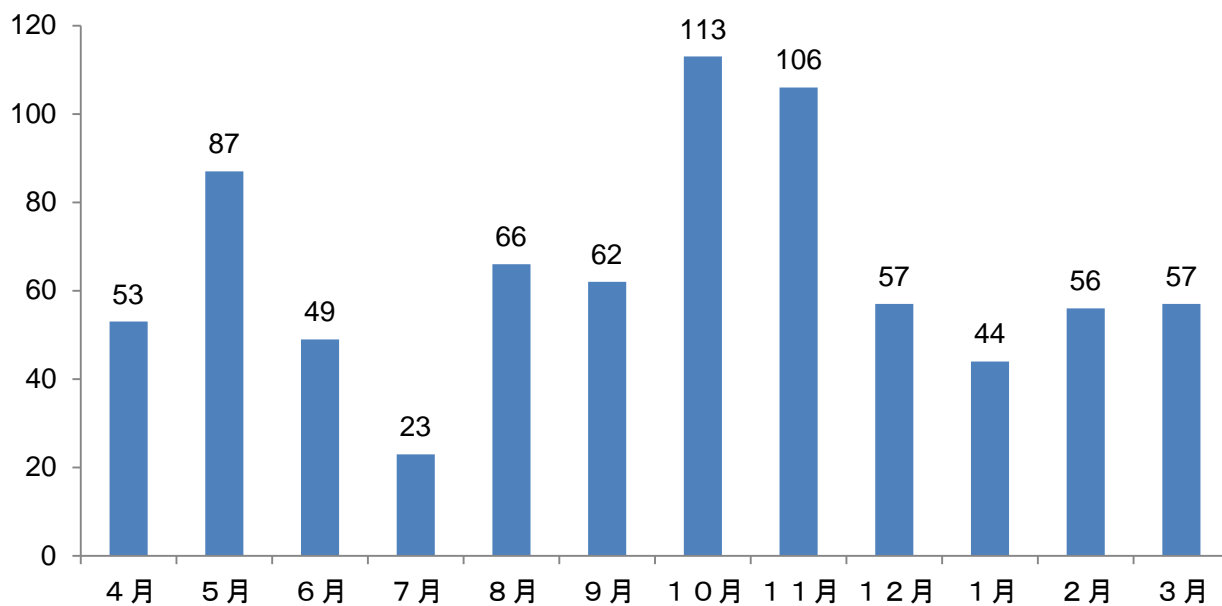


図1-2 利用人数 合計773回

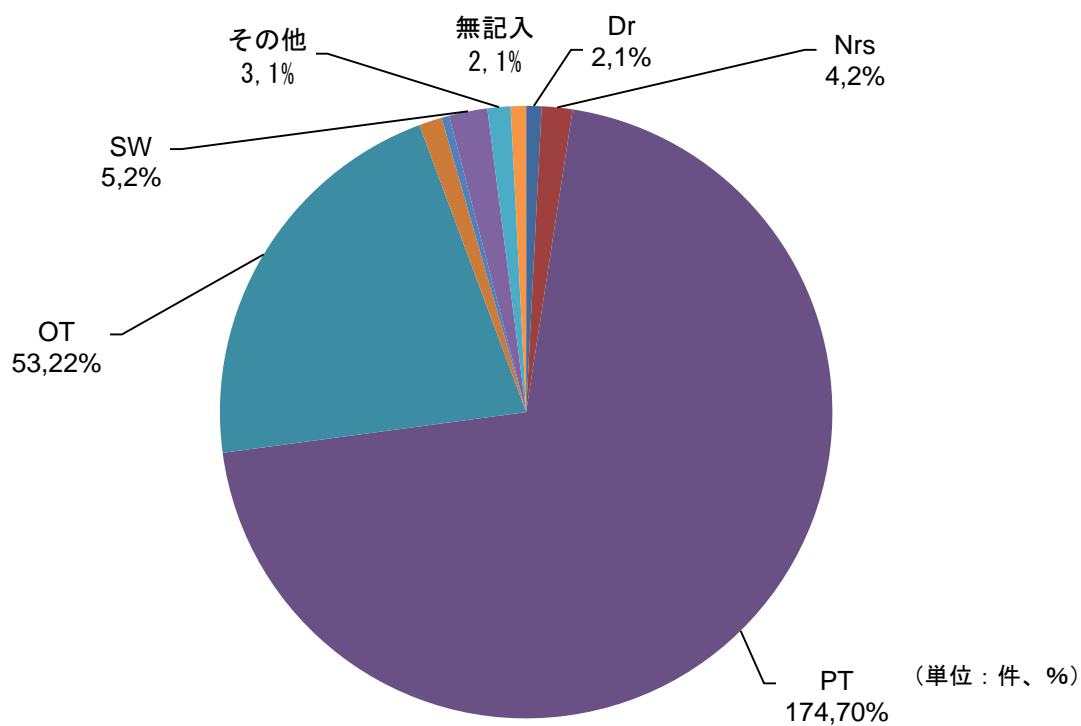


図1-3 職種合計 計247件

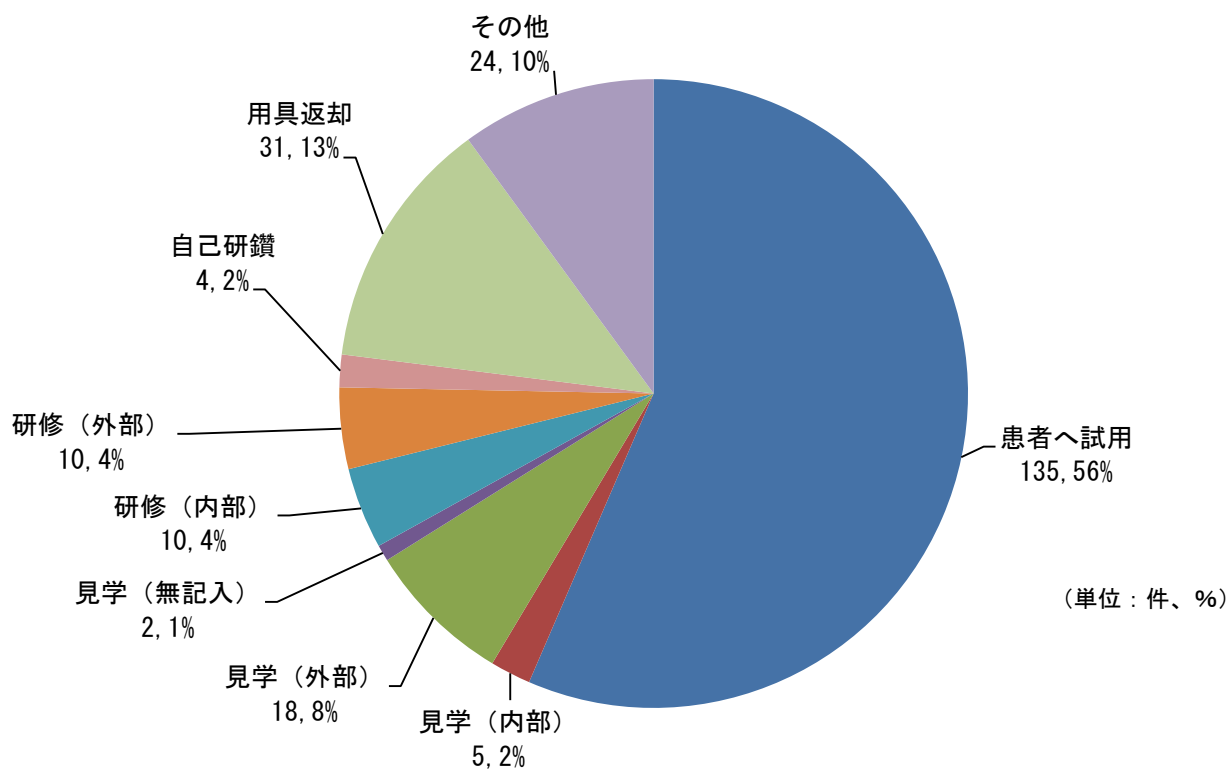


図 1-4 利用目的 合計 247 件

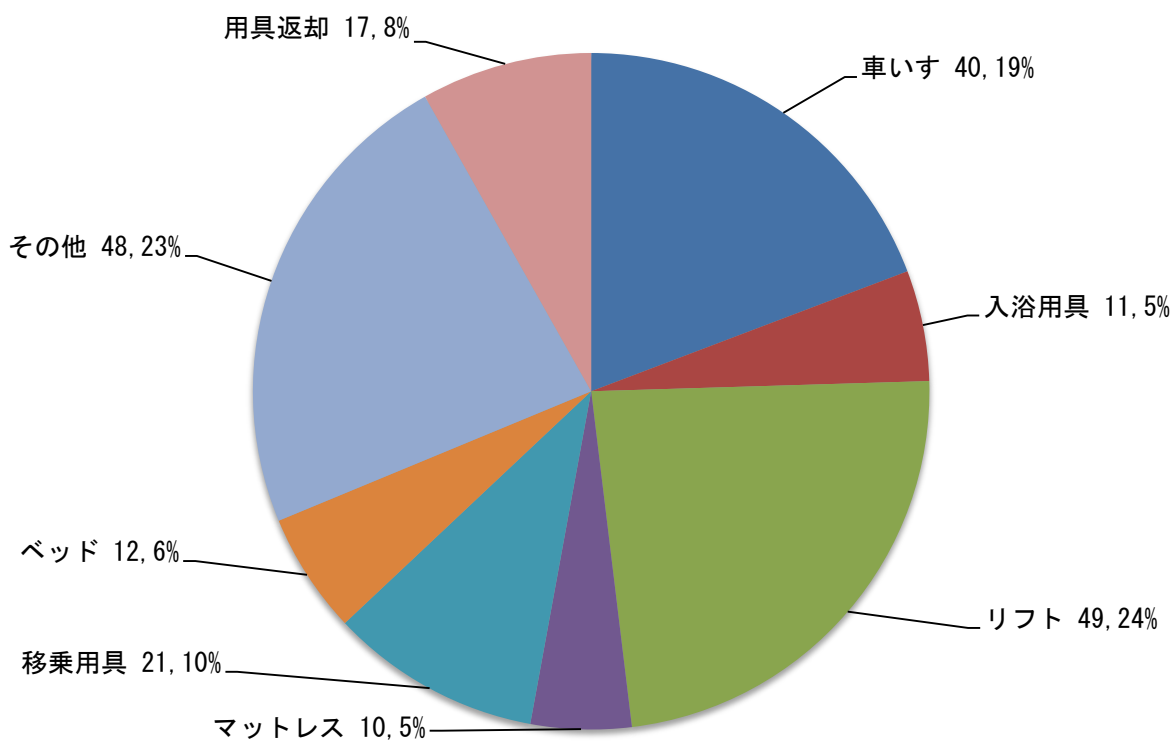


図 1-5 使用した用具 合計 247 件

### 3. 各作業班の活動報告

#### (1) 車いす班

- Xセンサーによる体圧計測  
看護師、セラピスト等からの依頼を受け、12件の計測対応を実施した。対象は、入院各病棟及び外来であった。

#### (2) 入浴、排泄、環境制御装置班（成人OT、小児OT）

- 浴室の住宅改修・福祉用具研修の第一弾として、当センターOTが講師となり、実際の退院支援の内容を説明し、質疑応答を行った。第二弾として、株式会社スペースケア石川氏、シーホネンス株式会社の中山氏に協力頂き、実際の導入例や費用などについて説明及び質疑応答を行った。
- どちらの研修も多く参加者があり、内容について好評を得た。今後、センターの新たな入浴関連福祉用具導入や入浴支援の幅の広がりにつなげたい。実施詳細は下記のとおり。

1) 研修会名：浴室の住宅改修・福祉用具について～シャワーキャリー・イレクター編～

実施日時：平成29年11月30日、平成29年12月12日

参加者：センター職員 21名（11月30日）、7名（12月12日）

2) 研修会名：浴室の住宅改修・福祉用具について～実践編～

平成30年3月27日

参加者：センター職員 30名

#### (3) 小児PT

- コミュニケーションチームアプローチプロジェクトとの共同活動
  - 1) 最新のコミュニケーション機器のデモンストレーション研修会  
実施日時：平成29年6月22日  
講師：テクノツール株式会社  
内容：MOMO、最新のコミュニケーション機器の紹介  
参加者：センター職員約40名
  - 2) 研修会名：コミュニケーション支援機器のデモンストレーション研修会  
実施日時：平成29年9月11日  
参加者：センター職員約20名
  - 3) 事例を通じたコミュニケーション支援機器研修会  
実施日時：平成30年3月19日  
参加者：センター職員 約15名
- コミュニケーション支援機器相談業務を1事例実施した。

- リフト導入について
  - ✓ 1 B Cでは、前年度から2名の利用者に移乗用リフトを使用しており、1 B Cスタッフは前年度よりも、さらにリフトの使用に慣れている印象がある。
  - ✓ 2 B病棟から移乗用リフトの使用希望があり、導入支援としてスタッフ向けのリフト研修会を実施した。現在は、病棟スタッフ・P T・O Tで連携して使用している。
  - ✓ 今後もリフト使用のニーズに合わせて多職種で連携しながら導入を勧めていきたい。

#### (4) リフト班

- センター職員全体を対象としたリフト勉強会を予定したが、実施に至らず。
- リフトリーダーの案内を配布した。今後も継続して周知する予定である。

#### (5) マットレス班

- マットレス選定アルゴリズムの改訂について褥瘡防止対策委員会と連携していくこととなった。
- 退院時やA D L変化時に、Xセンサーで体圧測定をし、マットレスの選定を行った。
- 今後は、Xセンサーの計測データを蓄積し、フィードバックする体制を構築する。

#### (6) 外部班

- 福祉用具業者、メーカーに協力依頼をした各種研修会の連絡調整を行った。
- 国際福祉機器展に参加し、最新の福祉機器の情報収集を行った。

#### (7) その他

- 看護部を対象にテクノエイドWGへの要望のアンケートを実施した。今後はその結果を元に勉強会開催を検討する。

### 5. 企業との共同研究、相談対応

- ダイヤ工業株式会社と共同研究にて、パワーアシストグローブの頸髄損傷者に対する即時効果を検証中である。利益相反委員会、倫理審査委員会の承認を受けて現在2例の介入を終了した。
- その他、2社から体位変換器、マットレス、クッションの製品評価の依頼があり、WGメンバーを中心に対応した。

### 6. 体圧測定について

- Xセンサーを使用した体圧評価を実施し、褥瘡予防およびシーティング、ポジショニングの検討に活用した。平成29年度は12件の計測対応を実施し、対象は入院 各病棟及び外来であった。

## 7. センター内の相談体制強化について

- センター内各部署からの福祉用具に関する相談対応を行った。主だったものは下記の通り
  - ✓ 歯科外来 : 個々の事例の車いすから歯科治療台への移乗方法の検討、評価依頼
  - ✓ 外来看護 : 移乗研修会の講師依頼
  - ✓ 外来 : 車いすシーティング評価、体圧測定依頼
  - ✓ 1 B C : ポジショニングクッション購入時の製品選定に関わるアドバイザー依頼  
マットレス選定依頼、ベッド柵による身体損傷防止対策の検討会参加依頼
  - ✓ 放射線 : 骨密度計測装置への移乗方法検討依頼（手すり設置について）

## 8. 研修等

センター職員を対象に、福祉用具に関する資質向上を目的に各種研修を実施した。前述の、各作業班での報告と一部重複がある。

### ①内容：リフト研修会

日時：平成29年5月23日

対象：1 B C スタッフ

### ②内容：MOMO，最新のコミュニケーション機器のデモンストレーション研修会

日時：平成29年6月22日

対象：センター職員30～40名程度

### ③内容：移乗研修会

日時：平成29年8月27日

対象：外来看護師 10名

### ④研修会名：コミュニケーション支援機器のデモンストレーション研修会

実施日時：平成29年9月11日

対象：センター職員約20名

### ⑤内容：浴室の住宅改修・福祉用具について～シャワーキャリー・イレクター編～

日時：平成29年11月30日、12月12日

対象：センター職員 21名（11月）、7名（12月）

### ⑥内容：リフト研修会

日時：平成30年2月22日

対象：2 B スタッフ 2名

### ⑦内容：事例を通じたコミュニケーション支援機器研修会

日時：平成30年3月19日

対象：センター職員15名



⑧内容：浴室の住宅改修・福祉用具について～実践編～

日時：平成30年3月27日

対象：センター職員 30名

## 9. 現在の課題、及び次年度の目標について

現在の課題、及び次年度の目標について下記3点を挙げる。

### (1) センター内への福祉用具の啓発及び、活用する体制の強化

現在まで、福祉機器展示室の展示品の管理、入れ替え、各種研修、及び相談対応を通して、センター内へ福祉用具に関する啓発活動を行ってきた。センター各部署から移乗用リフトや入浴に関する福祉用具のニーズが高まっているため、次年度はセンター内部への相談対応機能、人材育成に取り組んでいく。また、福祉機器展示室の展示品の入れ替えなど使用環境の充実を図りたい。

### (2) 他部署との連携体制の強化について

今年度に引き続き、関係委員会・WGとの連携を深める必要がある。特に、褥瘡防止対策委員会とマットレス選定のこと、脊髄損傷リハケアWGと移乗支援用具導入のことについて情報交換を図る。

### (3) 外部への情報発信機能の整備

福祉用具に関する相談対応、研修会開催を通じて県内への啓発を進める。特に移乗用リフトに関する研修会企画を次年度は実現させたい。

部署		氏名	
看護局		越 野 明 子	
看護局		相 澤 浩 美	
看護局		平 澤	章
成人療法室	作業療法科	佐 藤 美 希 子	
成人療法室	作業療法科	江 本 沙 希	
成人療法室	作業療法科	中 井 麻 梨 子	
成人療法室	理学療法科	北 郷 仁 彦	
成人療法室	理学療法科	佐 藤 大 幸	
成人療法室	理学療法科	片 山 友 樹	
小児療法室	作業療法科	三 屋 邦 明	
小児療法室	作業療法科	神 保 和 正	
小児療法室	理学療法科	金 坂 一 篤	
小児療法室	理学療法科	石 田 麗 子	
小児療法室	理学療法科	宇 津 木 隆	
補装具製作施設		浦 田 敦	
地域連携部		田 中 康 之	
地域連携部	相談室	木 口 結 香	
地域連携部	地域支援室	太 田 直 樹	

平成29年度 テクノエイドワーキンググループ活動報告書  
平成30年3月